

2016年度第1回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 初日の出賞

初日の出（はつひので）は、元日の日の出のこと。日本では、一年の無事を祈願し初日の出を見る習慣がある。

○ ジュニアカップ

ジュニア（Junior）は、「年少者」「息子」を意味する英語。

○ 日刊スポーツ賞中山金杯（GⅢ）

本競走は、昭和27年に『金杯』の名称で創設された重賞競走。当初は2600mのハンデ戦で争われていたが、29年から負担重量が別定に変更され、36年に2000mのハンデ戦となり現在に至る。平成8年からは東西で行われる金杯を区別するため、名称が『中山金杯』となった。『京都金杯』と並んで、新年の競馬を飾る名物競走として定着している。

日刊スポーツは、北海道・東京・愛知・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて施行されている。

<第2日>

○ 中山新春ジャンプステークス

新春（しんしゅん）は、新年や正月を指す言葉。新年を表す季語。

○ 初咲賞

初咲（はつさき）は、季節の最初に他の花に先がけて咲くこと。また、初めて花が咲くこと。

○ 迎春ステークス

迎春（げいしゅん）は、新年を迎えること。賀詞として年賀状などに用いられる。

○ ポルックスステークス

ポルックス（Pollux）は、ふたご座のベータ星。ふたご座の恒星の中では最も明るい。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオンと共に「冬のダイヤモンド」を構成する。名は、ギリシア神話で兄カストルと共にゼウスとレダの間に生まれた双子の弟の名前『ポリュデウケース』に由来するといわれている。

<第3日>

○ 寒竹賞

寒竹（かんちく）は、日本を原産地とする竹の一種。稈（かん）は高さ2～3m、直径1～1.5cm程度で細く、黄色または黒紫色をしている。本州・四国・九州に広く分布し、庭園や生垣に植えられている。

○ 招福ステークス

招福（しょうふく）は、福を招くこと。新年には、招福を祈願して多くの人が寺社を参拝する。

○ ニューイヤーステークス

ニューイヤー（New Year）は、「新年」を意味する英語。新年の挨拶は“Happy New Year”。

<第4日>

○ 成田特別

成田（なりた）は、千葉県北部の市。中世以来、成田不動で有名な成田山新勝寺の門前町として栄えた。東部の三里塚には、戦前のサラブレッド生産に大きな役割を果たした宮内庁下総御料牧場があった。近年は、成田国際空港や成田ニュータウンの建設により、国際都市として発展している。

○ サンライズステークス

サンライズ（Sunrise）は、「日の出」を意味する英語。

○ フェアリーステークス（GⅢ）

本競走は、昭和59年に『テレビ東京賞3歳牝馬ステークス』として創設された重賞競走。当初は1600mで行われていたが、平成3年に距離が1200mに短縮され、6年より現在の名称となった。20年の『阪神ジュベナイルフィリーズ』の施行時期移設に伴い、21年より施行時期を12月から1月へと変更し、距離を再び1600mに戻して施行されている。

フェアリー（Fairy）は、「妖精」を意味する英語。

<第5日>

○ 菜の花賞

菜の花（なのはな）は、アブラナの花のこと。アブラナは、アブラナ科の越年草。千葉県の県花。ナタネ（菜種）とも呼ばれ、油料作物や野菜などとして広く栽培されている。春に黄色の十字状花を総状につける。花言葉は「競争」「快活」。

○ 初春ステークス

初春（はつはる）は、春の始め、新春のことを指す言葉。旧暦の1月のことを「初春月」ともいう。新年を表す季語。

○ カーバンクルステークス

カーバンクル（Carbuncle）は、1月の誕生石であるガーネットを丸く磨いたもの。元々ラテン語で「燃える石炭」または「小さな石炭」の意味で、転じてルビーなどの赤い宝石の総称としても使う。

この宝石を持つと、富と幸運がもたらされるといわれている。

<第6日>

○ 初富士ステークス

初富士（はつふじ）は、元日に望み見る富士山のこと。旧来より初富士は縁起の良いものと考えられている。新年を表す季語。

○ ジャニュアリーステークス

ジャニュアリー（January）は、「1月」を意味する英語。前後に顔を持つ門番の神で、日の出や日没を初め、あらゆる物事の始まりを司るとされたローマ神話の神ヤヌス（Janus）に因んで、1年の最初にあたる月を「January」としたといわれている。

○ 京成杯（GⅢ）

本競走は、昭和36年に創設された重賞競走。創設以来1600m、別定重量で施行されていたが、平成11年に距離が2000mに延伸されたことにより、クラシックに向けて各馬の将来性や距離適性を試す上で更に重要な競走となった。

京成電鉄は、千葉県市川市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて施行されている。

<第7日>

○ 若竹賞

若竹（わかたけ）は、その年に生え出た竹のこと。今年竹、新竹とも言う。俳句の季語としても用いられ、与謝蕪村の『若竹や夕日の嗟峨と成にけり』などが有名。

○ 初霞賞

初霞（はつがすみ）は、初春の頃に立つ霞のこと。新年を表す季語。

○ アレキサンドライトステークス

アレキサンドライト (Alexandrite) は、宝石の一種。太陽の下では草緑色、人工光の下では赤紫色に輝く高価な宝石として知られている。名は、この石がロシア皇帝アレクサンドル 2 世の成年式の日に見出されたことに由来するといわれている。

<第 8 日>

○ 初菫賞

初菫 (はつあかね) は、元旦の初日が出る直前に東の空が黄赤色に染まった様子のこと。新年を表す季語。

○ 東雲賞

東雲 (しのめ) は、早朝に東の空がわずかに明るくなる頃のこと。夜明けを表す言葉としては他に「暁 (あかつき)」「曙 (あけぼの)」などがあるが、厳密にはその時間帯によって使い分けられる。東雲は、夜の終わりを指す「暁」と、太陽が昇る頃を指す「曙」の間。元日の暁天は特に「初東雲」といわれる。

○ アメリカジョッキークラブカップ (G II)

本競走は、日米の親善と友好を目的として、ニューヨーク・ジョッキークラブから優勝杯の贈呈を受け、昭和 35 年に創設された重賞競走。創設時は 2000m のハンデ戦であったが、翌年より 2600m の別定重量戦に変更された。その後、幾度かの距離や施行場の変更を経て、59 年に距離が 2200m に短縮され (同年は降雪のためダート 1800m に変更)、現在に至る。